

利根川舟運による地域活性化事業(茨城県 千葉県 利根川流域)

銚子～取手間の利根川舟運を復活し、東京や成田空港等内外からの誘客を図る。このため、利根川を連携軸に流域自治体が舟運とタイアップした広域連携イベントや地域の農林漁業産品の宣伝販売を行う。



かつて舟運で使われていた高瀬舟



平成20年度の主な取組

- ① 既存舟運のPRとタイアップした取手～銚子間のリレーイベント、市町村域を越えた河川空間を活用したイベントの実施(ウォーク、マラソン、カヌーリレー等)。
- ② 「利根川食紀行絵図」による情報発信やイベントに合わせた地域の農林漁業産品等の宣伝・販売を展開。

平成21年度以降の展開

利根川舟運の本格化に向けた不定期船運行の検討や旅行会社等と連携したツアー募集、平成20年度に実施した河川空間活用イベントの定着化と拡充、流域の農林漁業産品販売促進に向けた舟運、イベント等の連携強化を推進し、利根川を軸とした地域活性化を図る。

地域発案型映画づくりを起爆剤とした活性化事業の実験的試み

(茨城県水戸市、北茨城市、高萩市、日立市、ひたちなか市、大子町、常陸太田市、常陸大宮市、東海村、那珂市)

水戸藩開藩四百年(平成21年)を記念して企画されている地域発案型映画(桜田門外ノ変)制作を起爆剤に、旧水戸藩の主なエリアである県北地域を対象とした地域資源を再発見する多様な取組を展開し、地域のイメージアップ及びブランド力の向上を図る。



弘道館



ロケ風景

平成20年度の主な取組

- ① 映画関係者へのロケ地の推薦、地元エキストラの募集やオーディションの開催、地元食材を使用した炊き出し等の映画のロケ支援。
- ② 歴史講演会、史跡巡り、自然と文化講演会、郷土の食文化に親しむ会、ロケ地巡りツアー等の実施による地域資源の再発見。

平成21年度以降の展開

映画関係者等との連携強化や映画鑑賞運動の展開を図りながら、映像でとらえた地域の魅力を再確認するとともに、地域資源をベースにしたグリーンツーリズム、エコミュージアム等、市場創造型ビジネスへと展開させる。

人のあたたかさ と IT技術の情報で、人・街・駅・交通を活性化させるセンターづくり (茨城県つくば市)

つくばエクスプレス(TX)つくば駅を利用して当地を来訪する方々に対し、案内・情報提供の不足による不便を解消し、市内での円滑な移動を確保することにより、筑波山のみならず、つくば市周辺の施設への来訪者数の増加につなげ、地域の活性化を図る。



TXつくば駅

つくば国際会議場

平成20年度の主な取組

- ① TXつくば駅改札前における、IT機器や案内員を活用した「くつろぎ・おもてなしの場」の整備による来訪者の利便性の向上。
- ② 観光施設・名所等を結ぶ周遊バスの実験運行による観光客の来訪機会の拡大。

平成21年度以降の展開

平成20年度に社会実験として実施する「くつろぎ・おもてなしの場」及び周遊バスの運行について、運用上の課題や採算性等について検討・改善し、本格運用を目指す。TX開通による筑波山観光客増の効果を市外縁部にまで波及させ、つくば市全域を活性化する。

日光－会津観光軸元気再生プロジェクト (栃木県日光市、福島県南会津町、下郷町、会津若松市)

関東地方北端の日光市と東北地方南端の会津地域に存在する観光資源を結ぶ「日光－会津観光軸」を新たに形成し、県境ブロックを越えた一体的な観光周遊ルートとする。このため、地元団体や民間企業、行政が協議会を構成して協力・連携を図る。



平成20年度の主な取組

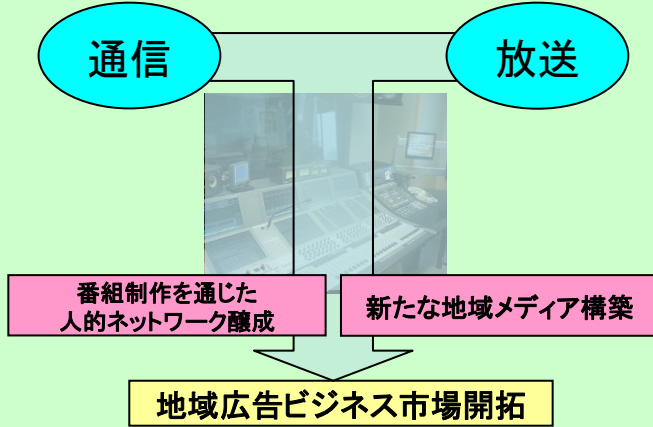
- ① 協議会構成員によるプレ活性化実験(キャンペーン・周知・商品販売等)
- ② プロジェクトに参画する全主体を集めた日光－会津観光軸キックオフ会議を開催。
- ③ 日光－会津観光軸戦略検討合宿を実施し、21年度から開始する具体的施策を検討。
- ④ 4市町長の首長サミットで長期の取組方針を議論。

平成21年度以降の展開

日光－会津観光軸の形成に向け、平成20年度の協議会で決定する施策を実行に移し、観光客の増加を図る。同時に、地域交通の維持・発展及び雇用創出による地域の発展を目指す。

地域人材ネットワークの醸成と通放融合による 新たな地域メディアを用いた地域型広告ビジネス市場の開拓事業（群馬県桐生市）

地域コミュニティを活性化させるため、地域の人材をネットワーク化するコネクター役の人材を育成する。また、地域経済を活性化させるため、ネットと放送が融合した新たな地域メディアを構築し、地域型の新しい広告ビジネス市場を開拓する。



平成20年度の主な取組

- ① ラジオ番組制作を通じて地域市民の人材ネットワークを醸成し、人材を繋ぐコネクター役を発掘。
- ② インターネットとラジオ放送の融合による新たな地域メディアを構築し、番組を発信するとともに、地域広告ビジネス市場を開拓。

平成21年度以降の展開

事業運営のノウハウを蓄積した上でモデル化し、地域間の連携および他地域での展開を目指していく。これにより、地方の地域広告ビジネス市場を醸成し、地方からの情報が得やすく、魅力ある地域情報が発信される社会が実現する。

「まえばし健康医療都市構想」実現化プロジェクト（群馬県前橋市）

既存市街地と周辺大学機関・医療機関等が連携し、中心市街地に誰もが安心していきいきと暮らせるコミュニティを形成する。また、社会実験により各主体間の連携方法や事業スキームを構築する。



平成20年度の主な取組

- ① 商工会議所と民間カルチャーセンター事業者との連携による地域活性化に資する講座の開設。
- ② 地元バス・タクシー事業者と近郊温泉の連携による健康増進連泊ツアーの実施。

平成21年度以降の展開

食の安全を目指した「まちなか学食システム」の事業化に向けた詳細な検討を行う。また、首都圏団塊世代を対象にした「地域による医療連携観光」の企画・ツアーを実施する。

高度複合集積都市実現及び新産業インキュベータ構築による商業活性化・都市型知的産業育成のための営み支援・人材育成（群馬県高崎市）

郊外流出した居住をまちなかに回帰させ、ものづくりを含む複合用途の高度な集積を実現することにより、中心市街地を商業拠点として再活性化するとともに、中心市街地をインキュベータとした新たな都市型知的産業を育成する。



都市中心部の市街地更新
(都市機能の高度複合集積)

都市中心部の新産業
インキュベイト機能強化

平成20年度の主な取組

- ① 地権者や住民等の主体的参画によるワークショップの設置等により、まちづくり・産業おこしの活動実践を支援。
- ② ワークショップにより検討する街並修景・市街地更新のモデル地区や、ケーススタディにより構築される高度複合集積都市の建築プラン策定を支援。

平成21年度以降の展開

まちづくりや産業おこしについて、地元関係者が自律的に事業展開できるように環境を整える。また、人材育成について、ワークショップ活動の成果も踏まえて、人材育成プログラムとして体系化する。

ふるさと秩父の創造 四季を彩る おもてなしのまちづくり（埼玉県秩父市）

地質資源を中心とした自然環境資源や歴史・文化などを素材として、住民がおもてなしの心でこれらの資源を案内できる、先駆的な取組として「秩父ジオパーク」を形成し、観光・交流・体験による地域づくりを行う。



平成20年度の主な取組

- ① 地域資源を有機的に結びつけた散策コースを確定し、このコースに秩父の伝統食（小昼飯）を盛り込んだモニターツアー等を実施。
- ② 環境学習、自然体験などができる「森のキャンパス」の構築、サイクリートレインなど新しいタイプの誘客方策、歩くことによる健康志向の観光・交流プログラムを構築。

平成21年度以降の展開

確定した散策コースやサイクリングコースなどに優先順位を決めて、安全に配慮した整備を実施。おもてなしの心を持った「市民学芸員」が温もり観光ガイドとして、秩父の魅力を来訪者に広く発信・提供していける活動を展開。

戸田オリンピックボートコースの水質浄化を目指して（埼玉県戸田市）

水質悪化の進むボートコースに池蝶貝（淡水真珠の母貝）を投入して、水質浄化と淡水産真珠のブランド化を図り、地域のイメージアップを図る。また、貝の里親制度を創設して、多くの人々に環境問題について考える機会を提供する。



平成20年度の主な取組

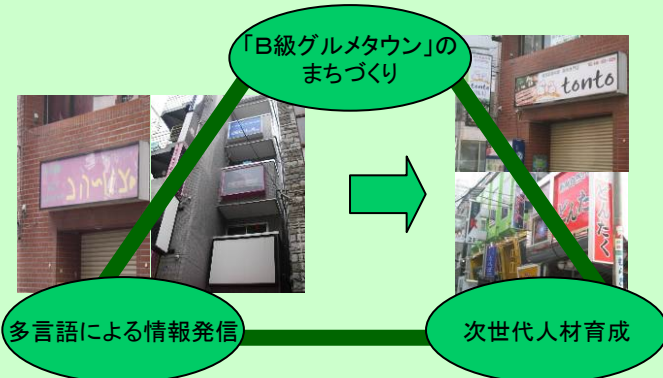
- ① 埼玉県ボート協会及び埼玉大学により池蝶貝による水質浄化の実証実験を実施。
- ② 池蝶貝の里親制度を創設し、環境に関心のある個人や企業、団体等を対象に池蝶貝の里親を募集。
- ③ 淡水真珠のPR事業として淡水真珠のアクセサリー作り講座を開催。

平成21年度以降の展開

池蝶貝の投入を増加させ、水質浄化の実効性を確認するとともに、里親制度やPR事業などをさらに充実させ、本格導入に向け地域住民や企業の本格的な参加を求めていく。事業が軌道に乗れば、淡水真珠の売却益を稚貝の購入に充てるサイクルが確立する。

西川口・安全で明るい街への再生 ～性風俗の街からの脱却～（埼玉県川口市）

地域との連携を強化し、空き店舗の活用、大学・NPOと連携した次世代の人材育成などの取組を複合的に行うことにより、違法風俗店の一斉摘発後の街のイメージの転換と住みやすい街としての生活利便性の向上を図る。



平成20年度の主な取組

- ① B級グルメタウンの街づくり推進に向けた、グルメガイドマップ等による情報発信や空き店舗を活用したB級グルメチャレンジ店舗の設置支援。
- ② 次世代のまちづくりリーダーを養成するための養成講座の開設やワークショップ、キャリア・カウンセリングの開催。

平成21年度以降の展開

B級グルメタウンチャレンジ店舗の拡大・常設化、住民自らの手による地域の情報発信・取組の展開、安全で明るい街づくりに向けた性風俗店舗立地規制除外地域のあり方の検討等により、特色ある歓楽街、都心への近接性を活かした生活利便性の向上を図る。

千葉の里山・森プロジェクト～企業・県民・NPO・行政等の新たな協働による 里山循環システムの再構築～（千葉県）

千葉の里山を持続的に保全するため、人と自然の共生を前提とした里山の利活用のシステムを再構築する。具体的には、各地域の自然環境に合わせた里山づくり活動への参加促進、循環型里山暮らしの促進等を行う。



平成20年度の主な取組

- ① 京葉臨海コンビナートにおける臨海部企業及びNPOの企画による里山フェアや印旛沼周辺地域における地域NPOの企画による北総地域里山フェアを開催。
- ② 里山の動植物や農林業、景観等、里山保全に関する高度な知見を有する専門家チーム(里山ドクター)を結成し、各活動団体等の要望に応じ、計画の策定から実施に至るまで、様々なシーンに派遣する。

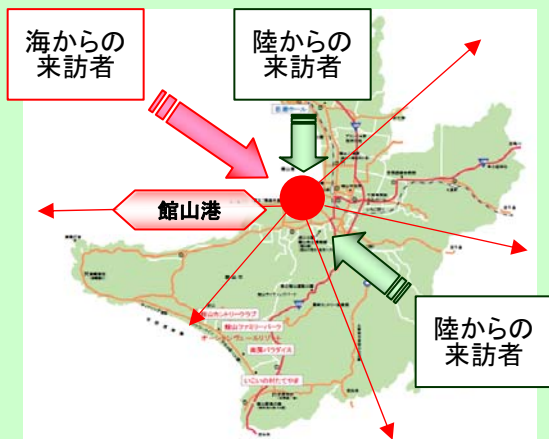
平成21年度以降の展開

リーディング事業の実施により里山数の拡大はもとより、参加主体の拡大を図るとともに、「里山資源循環の促進」として、間伐材等の燃料活用や紙製品化等のプロジェクトを行う。このことにより、人と自然が調和した里山の利用・活用というシステムを新たな協働により構築する。

館山港を核とした観光交流促進プロジェクト／新たな「南房総ツーリズム」の創出

～市民・NPOが主体となった「地域経営プラットフォーム」の創設～（千葉県館山市、鋸南町、南房総市、鴨川市）

温暖な南房総の特性を活かし、港を核とした自然共生型の観光リゾート空間を市民主導で実現。このため、多様な主体により構成される「地域経営プラットフォーム」を中心に、観光人材の育成、滞在・周遊プログラムの開発、地域観光情報の一元化等を行う。



平成20年度の主な取組

- ① NPO連携を中核に、「地域経営プラットフォーム」を創設するとともに、「仮称：南房総観光カレッジ」との連携により地域コーディネーターの育成を図る。
- ② 港を起点とする「まちなか散策マップ」の制作や、旅行者ニーズに特化した「温泉旅行」「グルメ(食文化)」情報など、南房総の地域観光情報の一元化を図る。

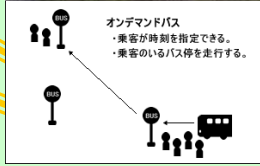
平成21年度以降の展開

「地域経営プラットフォーム」の機能強化や「観光カレッジ」の本格的な運用(観光人材の育成)、観光圏との連携による滞在・周遊プログラムの充実、地域観光情報の一元化・観光圏との連携強化を図り、新たな「南房総ツーリズム」の創出する。

柏の葉地域の活性化を目的としたサービス指向の公共交通体系の構築調査

(千葉県柏市)

駅と周辺地域を結ぶ公共交通機関が不足する柏市北部において、駅から10Km圏程度の範囲を対象とした地域交通としてオンデマンド公共交通(バス、タクシー)の運行実証実験を実施し、生活交通の確保と優れた住環境づくりを目指す。



平成20年度の主な取組

- ① 利用者の意見を踏まえて予約システム等の改良。
- ② 料金收受機能の追加や通勤時間帯の定時運行・シャトル運行を取り入れた運行実証実験の実施。
- ③ 病院や店舗等の実験の状況を説明し、オンデマンド公共交通における付帯事業の可能性について意見交換。

平成21年度以降の展開

平成22年度の柏市全域への本格導入に向け、平成21年度は柏駅周辺を含めた市南部を対象とした実証実験を実施。また、柏市での本格導入を踏まえて、類似する地方都市へ展開。

元気がおいしい南房総 女性力を磨く“良い食”起業家プロジェクト

(千葉県南房総市)

食に関する新商品の開発・マーケティングのノウハウ等を身に付けた女性起業家を育成する「女性力起業家アカデミー」や新加工品のテストマーケティング等を通じて、女性の起業家育成と継続性ある地域の発展を目指す。



平成20年度の主な取組

- ① 「女性力起業アカデミー」を開校し、起業に向けた動機付けと組織化及び基礎知識を学習。同時に、商品の開発を行う作業部会を複数設置。
- ② 開発した加工商品と名物料理の高品質化・実践販売力強化を図るため、テストマーケティング等を実施。

平成21年度以降の展開

子ども農山漁村交流プロジェクトとの連携を進めるとともに、地産地消を推進し、“学校給食・食育”を実施する。また、アカデミーの継続・拡充を進め、成功事例の商品化や起業・販売の支援を行う。女性力起業家アカデミーの修了者による起業家サロンを作り、起業家連携促進・NPO設立を行うとともに、都市部でのプロモーション活動を行い、空き公共施設の有効利用を図るとともに、遊休農地バンクを創設し、プロモーション拠点を整備する。

「灰干しプロジェクト」の地域再生全国ネットワーク構築（東京都三宅村）

三宅島の未利用資源（火山灰・豊富な未利用魚種）に着目し、保存の利く高付加価値製品「灰干し」として商品化するとともに、全国への販売ルートを開拓。この過程で離島の生産ネットワークを構築し、消費地からの遠距離等の条件不利を克服する地域連携ビジネスモデルを確立する。



平成20年度の主な取組

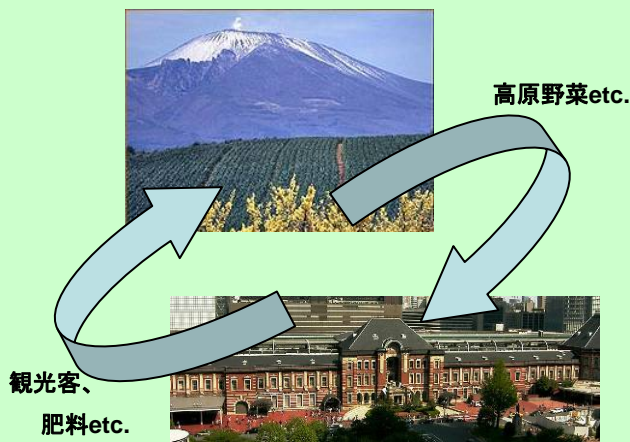
- ① 三宅島の火山灰・礫を石材加工業を有する笠岡諸島で灰干し用火山灰に加工し、3島に分配して各地の未利用鮮魚を活用した灰干し商品化ネットワークを試行。
- ② 製造販売共働の事業組合LLPを設立し、全国販売のための受発注システムの稼働実験を実施。

平成21年度以降の展開

平成20年度に設立する「LLP地域再生ネットワーク」を本格稼働させ、他の離島や僻地との連携を拡大し（平成21年度は15島・地域に拡大）、地域資源を活かした商品化の拡充を図るとともに、本ネットワークの流通ルートを活用した販売を推進する。

浅間山麓地域と東京駅周辺地域のコラボレーションによる元気アップ事業（長野県小諸市、東京都千代田区）

「省CO2対策」「国際都市観光対策と雇用の場づくり」「安全・安心対策」の3つを軸に、浅間山麓地域と東京駅周辺地域が互いの地域資源を有効に活用しながら連携することにより、持続可能な地域づくりを推進。



平成20年度の主な取組

- ① 浅間山麓地域の商品（高原野菜等）と丸の内関連商品（コンポスト）のインタラクティブ物流システム（空荷便解消）の構築・運用。
- ② 丸の内エコポイントを活用した浅間山麓地域への観光促進方策の検討。
- ③ 災害時第二通信網（CATVネットワーク等）の構築及び通信網を活用した相互連携型の防災訓練の実施可能性の検討。

平成21年度以降の展開

上記の3つの軸を柱に、CO2削減貢献型ふるさと納税、テレワーク、eコマース等実証実験を継続的に実施するとともに、順次事業として本格展開することにより、雇用、純観光客数、税収の増加等を実現させ、持続可能な地域を創出する。

江戸川“交流市”の実施と“江戸川交流促進事業体”の立上げ（東京都江戸川区、葛飾区、千葉県浦安市、市川市、松戸市、流山市、春日部市、野田市、杉戸町、茨城県境町、群馬県みなかみ町 他）

江戸川上・中・下流の流域コミュニケーションを促進し、安全・安心で経済活力のある流域社会を創造するため、江戸川及び川沿いの施設を、日常時には休憩、観光、健康、教育、経済活性化の拠点として、災害発生時には緊急連絡・対策機能を持つ施設として活用。



平成20年度の主な取組

- ① 沿川4箇所における流域特産品販売を目的とした「交流市」の開催と定例化に向けた体制づくり。
- ② 自転車道を利用したラリーイベント等による自転車及び自転車道の活用アピール。
- ③ Eボートの乗船体験による川の水面の日常的な利用促進の取組。

平成21年度以降の展開

「交流市」の定期開催や自転車道・河川利用の活性化に向けた条件整備を進めるとともに、流域交流の事業化の担い手として「(仮称)江戸川交流促進事業体」を発足させる。

初黄・日ノ出町地区再生プロジェクト(黄金町バザール)（神奈川県横浜市）

旧違法特殊飲食店の一部を借上げて、そこを拠点に「衣食住」をテーマに街おこしのイベントを開催し、地域や大学、ボランティア等の協働により、ワークショップなどを通じて、街の浄化・活性化のための事業に取り組む。

黄金町再生に向けた取組



現在の黄金町の街並



一体となった取組によって街が生まれ変わろうとしている

平成20年度の主な取組

- ① 旧特殊飲食店及び鉄道高架下を活用したアートフェスティバル「黄金町バザール」の開催
- ② 「黄金町バザール」で誘致したショップや飲食店の事業採算性や波及効果に関する検証

平成21年度以降の展開

旧違法特殊飲食店の借上げ部分を拡大し、若いクリエイター等にスタジオやギャラリーとして貸し出すとともに、地元と協働で進める「場」を新たに設けるなど、事業の面的な展開を一層進め、「アート」の街へとイメージを変えていく。

「小田原ブランド元気プロジェクト」

～技と匠による世界ブランドと小田笑手形で賑わいの創出～（神奈川県小田原市）

「文化を柱とした、産業、観光、居住のバランス良い街づくり」をテーマに、街中回遊型、顧客育成型、顧客満足度向上型、地域資源発信型の4事業を複合的に展開し、小田原ブランドの浸透及び国際観光への展開を図る。

商店街のポータルサイト



観光イベントの風景(おでんサミット)



小田原漆器



蒲鉾職人による実演(かまぼこ祭り)

平成20年度の主な取組

- ① 携帯電話に地域情報が表示される商店街サービス券「小田笑手形」を販売し、観光客や住民の街中回遊を促進。
- ② 「小田笑手形」に関する特設サイトを構築し、小田原の情報や魅力を発信。
- ③ 伝統工芸品としての小田原木製品の販路拡大に向けた試作品の開発。
- ④ 木工職人や蒲鉾職人等の技を披露する「匠フォーラム」開催による海外PR展開。

平成21年度以降の展開

コミュニティサイトの強化や「小田笑手形」の追加発行、木工以外の国際的に誇れる工芸品や食品の開発を推進するとともに、(仮称)「好きです小田原ファンクラブ」を育成しながら、国際的な知名度アップを図るとともに、姉妹都市との友好関係を強化する。

ちがさき方式レンタサイクルを活用した元気まちづくり事業（神奈川県茅ヶ崎市）

人と環境にやさしい自転車のまちの実現に向け、市役所が企業や社会福祉法人等に一括貸付する「ちがさき方式レンタサイクル事業」の導入を図るとともに、自転車利用に伴う自己防止やマナー向上を目的とした普及啓発を展開する。

茅ヶ崎市



企業や社会福祉法人等

通勤、営業活動、観光、健康増進活動等、従来の居住者の日常生活以外の側面において自転車利用を促進

平成20年度の主な取組

- ① 自転車を一括貸付する「ちがさき方式レンタサイクル事業」のパイロット事業の実施。
- ② 自転車ルート地図やパンフレット等による自転車安全利用の普及啓発の展開。

平成21年度以降の展開

一括貸付形態に加え、一般の来訪者や商店街等も視野に入れたレンタサイクル事業の貸付先の拡充を図るなど、市・協議会・市民の3者が一体となった継続的取組を通じて、「ゆとりある生活を楽しむための『人と環境にやさしい自転車のまち 茅ヶ崎』」を実現する。

「富士山の世界遺産」官民協働広域連携事業（山梨県富士河口湖町）

平成23年度の富士山の世界文化遺産登録に向け、登録後の富士河口湖地域の環境を保全しながら、産業育成、環境教育、観光振興を図るため、自治体やNPO・地元企業・団体、シンクタンク等の官民協働による取組を促進。



石鹼製品

世界遺産登録を目指す富士山と菜の花畑

平成20年度の主な取組

- ① 遊休農地を活用した菜の花の栽培やてんぷら油の回収によるBDF原料の確保とこれらを活用した実証実験、副産物のグリセリンを活用した新たなブランドづくり(石鹼)。
- ② 外国人観光客も対象としたパンフレット等を活用したPRを展開し、世界遺産登録の地域全体の機運を高め、啓発・普及を促進。

平成21年度以降の展開

「広域観光振興の推進」、「国際コンベンション機能の強化」、「貴重な自然・文化の保全」の3本を柱として、開発・保全両面の事業に取り組んでいくとともに、BDF利用による耕作放棄地等を通年利用した風景街道の推進等による、国際観光地としての魅力の向上・交流の拡大を図る。

「源流元気ラボ」の構築による源流再生プロジェクト —流域における多様なセクターの連携による地域再生—（山梨県小菅村）

林業の衰退による雇用の減少や若者の流失を打開するため、地元住民や下流域の住民、NPO法人、大学、専門家、河川管理者、企業などの主体が協働して源流資源を活かした多様なビジネスを創出し、経済的自立と多摩川流域への貢献を図る。



←小菅の木でできた梁

↑多摩源流水

↑壁面・床に利用

料金一部が「源流の森再生基金」

平成20年度の主な取組

- ① 多様な主体が参加する活動拠点として「源流プラットホーム」や「源流元気ラボ」を設立し、新たな源流商品開発の体制を強化。
- ② 良質ヒノキのブランド化や間伐材を利用した「木づかい保健室」づくり、「多摩源流水」や付加価値を付けた特産物の販売展開。

平成21年度以降の展開

循環型源流産業の構築に向け、活動拠点である「源流プラットホーム」及び「源流元気ラボ」の充実を図り、源流ライセンスの創設や下流域と連携した流通システムの構築、IT情報システムを活用した源流情報センターの設置 等の各種モデル事業を展開する。